

公的医療機関等 2025 プラン（2023 年版）

○基本情報

- ・ 医療機関名 社会医療法人熊谷総合病院
- ・ 開設主体 社会医療法人熊谷総合病院
- ・ 所在地 埼玉県熊谷市中西4丁目5番1号
- ・ 許可病床数 310床
（病床種別） 一般病床 310床
（病床機能別） 高度急性期 10床、急性期 243床、回復期 57床
- ・ 稼働病床数 310床
（病床種別） 一般病床 310床
（病床機能別） 高度急性期 10床、急性期 243床、回復期 57床

・ 診療科目

内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、外科、整形外科、小児科、脳神経外科、泌尿器科、産婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科、形成外科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、腎臓内科、人工透析内科、消化器外科、脳神経内科、病理診断科

- ・ 職員数 常勤 641人、非常勤 87.3人（2023年12月）

	常勤	非常勤 (常勤換算)
・ 医師	63人	21.0人
・ 看護職員	285人	36.5人
・ 医療専門職	198人	1.1人
・ 事務職	69人	14.5人
・ その他職員	26人	14.2人

看護補助者、保育士等はその他職員に含む。

1. 現状と課題

①当該病院（自施設）の現状

・地域内での役割・機能

社会医療法人熊谷総合病院は埼玉県厚生連熊谷総合病院を前身として2016年5月に開設された。新生熊谷総合病院として以下のとおり基本方針を定めている。

基本方針

- 病院は、地域の中核病院として、地域医療関係者と密接な協力のもとに住民の保健・健康・福祉の向上のために尽力します。
- 病院は、医療人の教育・研修に努め、常に医療水準の向上を図ります。
- 病院の職員は、いつも誠実に真摯な態度で患者さんに接し、患者さんの理解と選択に基づき、最善の医療を提供するように努めます。
- 病院の職員は、お互いの人格を尊重し、持てる医療知識と技術を補完し合い、もって最善のチーム医療の実践に努めます。
- 病院は、病める者の人格及びプライバシーを尊重しつつ、良質な医療を提供できる病院を目指します。

地域の中核病院として救急、がん、脳卒中、心血管疾患及び糖尿病を中心に医療を提供している。また、前身からの消化器内科、外科、整形外科を中心とした診療体制に加えて、脳神経外科、循環器内科、リハビリテーションなどの診療科を強化している。

災害医療については、2022年1月より埼玉県災害時連携病院、埼玉地域DMAT指定病院として災害時における連携・協力体制を整備している。

2022年9月より地域医療支援病院の承認を受け、紹介・逆紹介など他医療機関との連携を推進しているほか、CT、MRIなどの高額医療機器の共同利用を行い、医療機器の効率的な活用に努めている。北部医療圏でPET-CTや高精度放射線治療装置「トモセラピー」が導入されているのは2023年3月現在当院のみとなっている。

R4 診療実績			
入院患者延べ数	107518	病床利用率	95%
1日平均入院患者数	296	平均在院日数	12.8日
新入院患者数	6460	初診紹介患者数	7705
外来患者延べ数	143958	紹介率	65.1%
1日平均外来患者数	584	逆紹介患者数	11825
救急患者数（入院）	1925	逆紹介率	97.6%
救急患者（外来）	4172	手術件数（入院）	4649
救急車搬送台数	3539	手術件数（外来）	1281

②当該病院（自施設）の課題

救急に関してはコロナを除くと満床による応需不能と処置中でのお断りが多い。救急専門医確保が困難で当直医師数の増員が見込めない現時点では、当直医が各科待機医に依頼する現体制を取らざるを得ない。また急性期総合病院としていくつかの科の常勤医不足が挙げられる。

予防医療の面では地域唯一のデジタルPET-CTという資産を十分に活かしてきていないことも課題の一つである。

2. 医療機能ごとの病床数

時点	病床数	医療機能別					区分別	
		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休床	一般	療養
2023年 12月1日 時点	310床	10床	243床	57床	-	-	310床	-
2025年 7月1日 時点	310床	10床	243床	57床	-	-	310床	-

※令和5年度病床機能報告の数値を入力

3. 今後の方針

①地域医療構想を踏まえた当該病院（自施設）の地域において今後担うべき機能・役割

熊谷総合病院の入院患者は北部医療圏である熊谷市と深谷市に加えて、隣接する行田市（利根）、鴻巣市（県央）が中心となっている。当院の担う機能として、増加するこれら地域からの紹介患者を可能な限り受け入れることと、断らない救急医療である。そのための病床確保目的で当院は令和4年10月より42床の地域ケア包括病棟を急性期病棟に転換させていただいた。したがって当院は急性期機能をこれまで以上に発揮し地域に貢献する責務があると考え。より多くの救急患者、紹介患者を受け入れるためには、地域医療連携の中心となり平均在院日数を短縮することが必須である。小児二次救急については現在の輪番体制を維持し、引き続き受け入れ数を増やす。

回復期機能は現在の地域最大の病床数、療法士数を維持した上でリハビリの質を高め、さらに他院からの受け入れを増やす必要がある。

予防医療、検診事業に関してはPET検診を含め、引き続き件数を伸ばし地域住民の健康を守ることが当院の役割と考える。

災害医療は災害拠点病院を目標に、医師会とも連携し大規模災害訓練を継続し、災害に強い熊谷総合病院を構築する。

②①を踏まえた今後の方針

病病連携推進だけでなく圏内の在宅クリニック、施設との連携を密にすることで亜急性期の段階の患者の転退院を促進し、平均在院日数を現在の12日台から目標の11日にする。当院の在宅医療を充実させることはもちろん、ACPなど地域への啓蒙活動を推進することで急性期医療資源を確保する。

回復期リハビリテーション機能に関しては地域の需要に応えるため、現在の病床数のまま回転数を上げ他院からの受け入れを増やせるように努める。

医師、看護師不足に関しては紹介会社に頼らないリファラル制度を推進し、将来的には救急専門医の確保を行いたい。

③その他の数値目標について

紹介率：50%以上

逆紹介率：70%以上

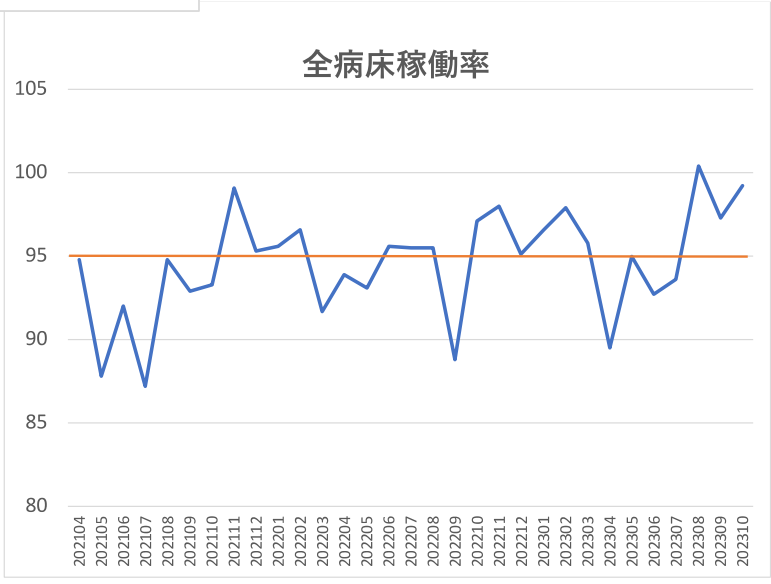
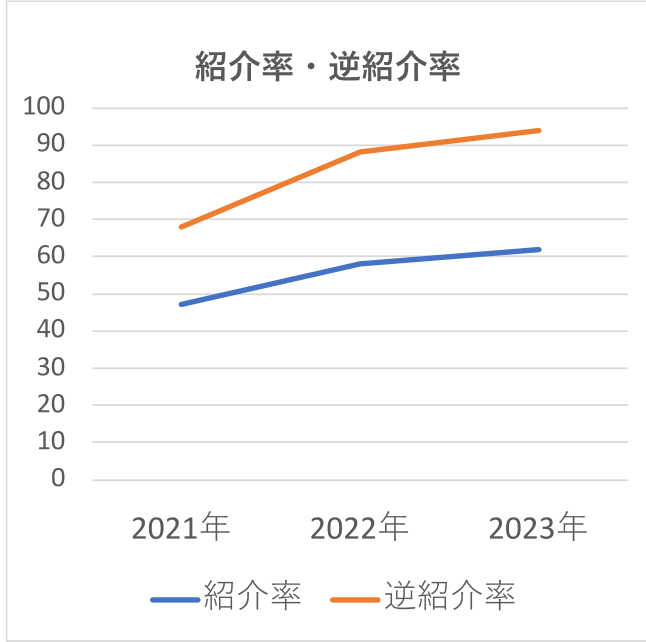
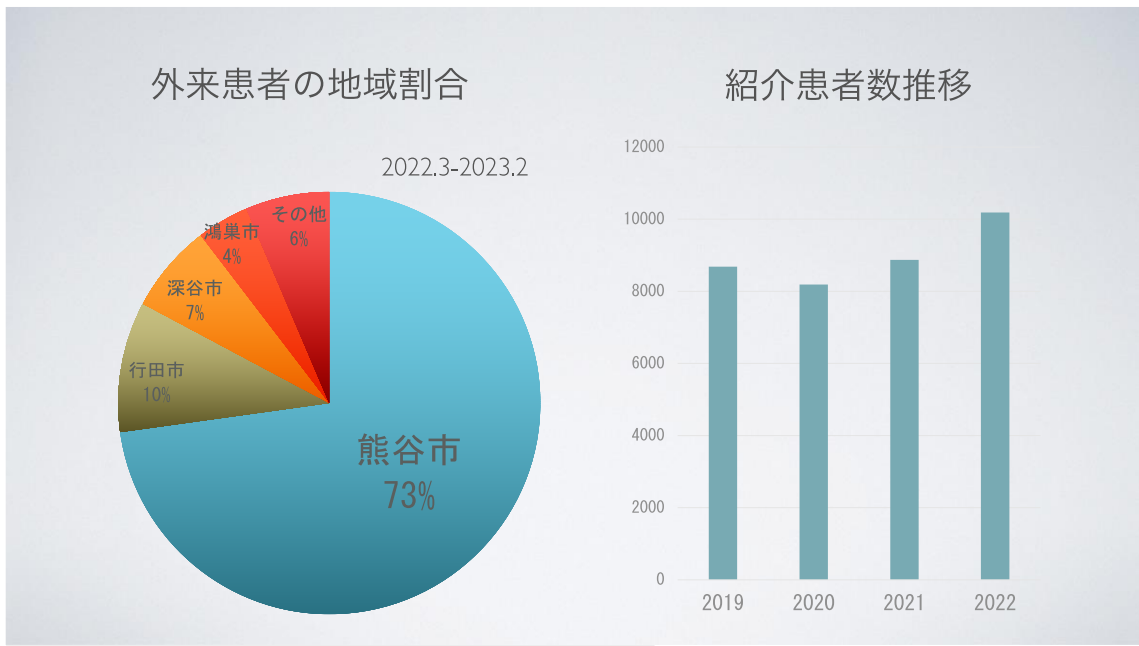
PET 共同利用率：30%以上

4. 新興感染症への取組

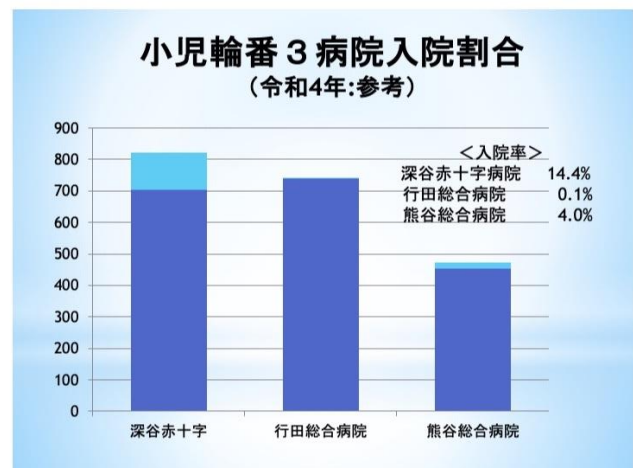
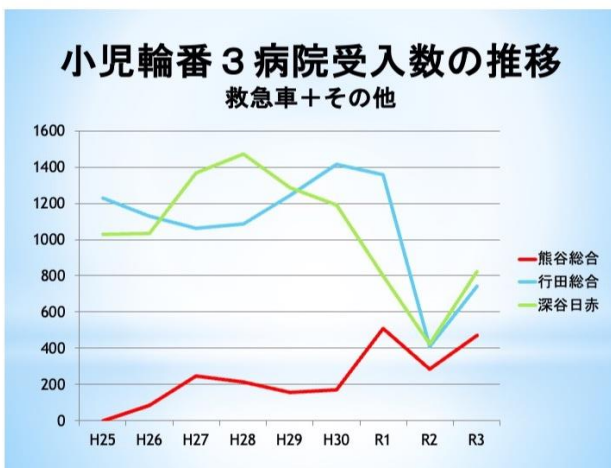
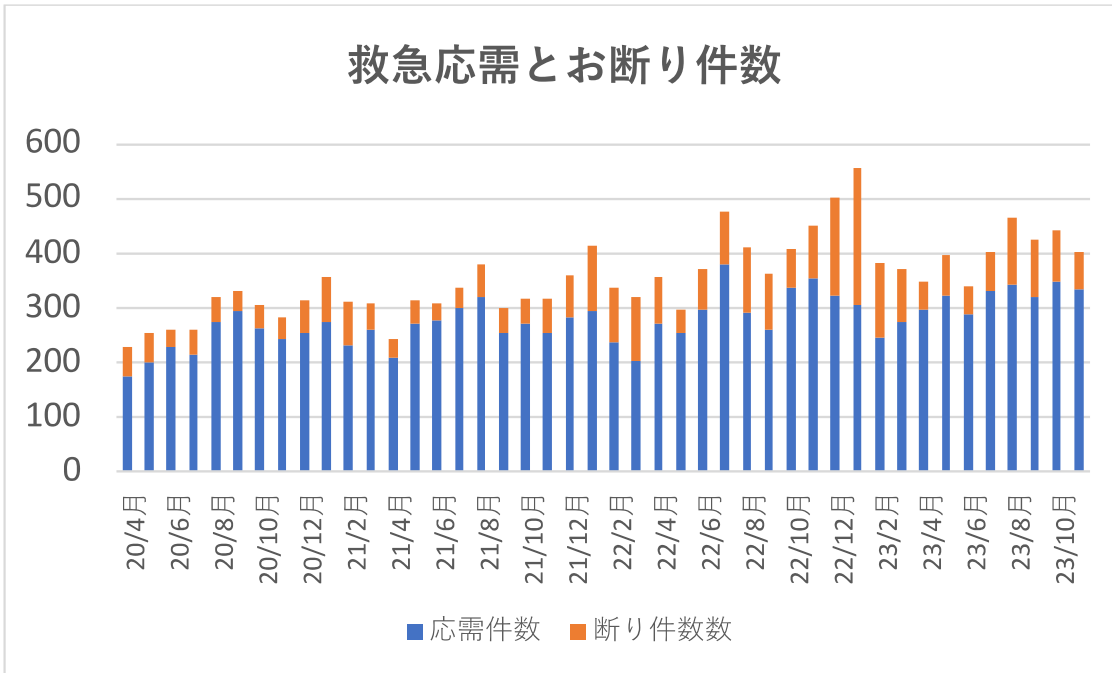
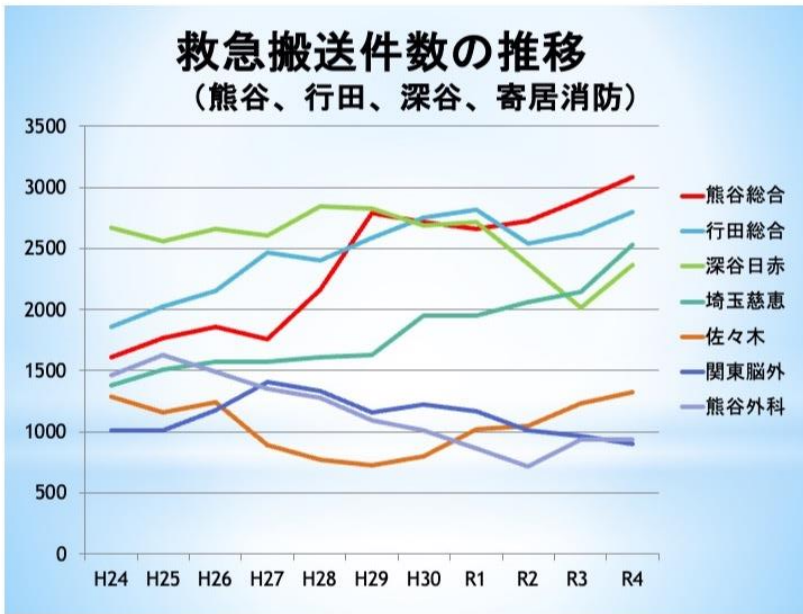
熊谷保健所や熊谷市医師会、加算連携病院、加算連携医院との感染カンファレンスを今後も継続して行うことにより、顔の見える関係を強化し、お互いの情報・知識の共有を行う。感染管理認定看護師は行政からの依頼を受けCOVMAT 隊員として施設等に随時派遣されているが、マンパワー不足は明らかで人材の育成が急務である。また令和5年9月末までに22,482人の新型コロナワクチン予防接種を行った経験を生かし、病院として機動的に対応できる体制を維持していきたい。

5. その他

当院の地域内での役割



①救急医療

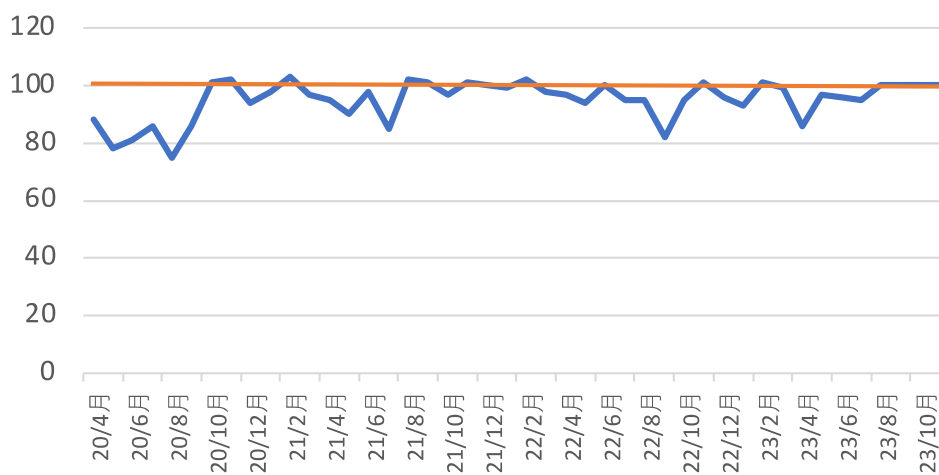


②回復期機能

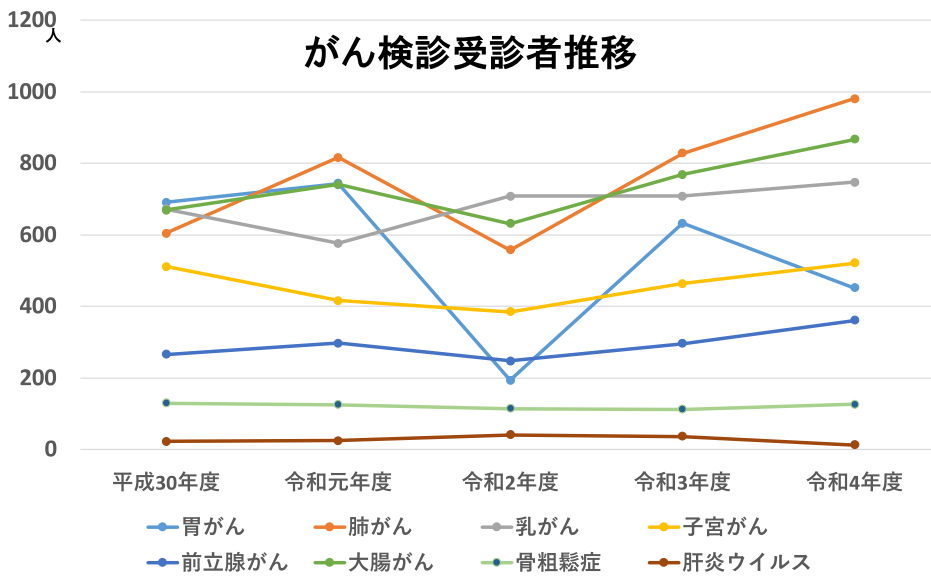
北部地域の回復期リハビリテーション病棟

病院	回復期リハ病棟	療法士数
熊谷総合病院	● 57床	99
埼玉慈恵病院		35
熊谷外科病院		12
関東脳神経外科病院	● 48床	41
西熊谷病院		15
埼玉県立循環器呼吸器病センター		16
深谷赤十字病院		21
埼玉よりい病院	● 50床	51
(行田中央総合病院)		12
(行田総合病院)	● 56床	85

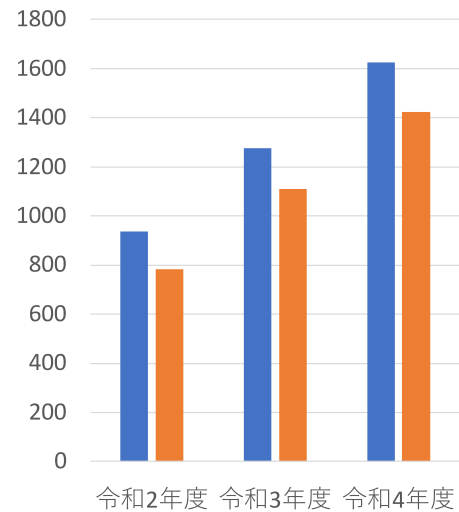
回復期リハビリテーション病棟稼働



③ 予防医療



人間ドック受診者数



人間ドック受診者推移

